米兵による強盗殺人事件に対する抗議声明

2026年10月3日に、那覇市内で女性に対する強盗殺人事件が発生し、在沖米軍海兵隊員が逮捕されました。このような残酷な事件が起きたことに対し、私たちは不安と許せない気持ちでいっぱいです。

私たちは、これまで在沖米軍が関わる事件に対して2年連続で抗議声明を出してきました。今回で3年連続です。

1972年の日本復帰以降、沖縄で米軍構成員による刑法犯の摘発は6400件以上もあります。2025年は101件あり、そのうち凶悪犯は6件でした。今年に入ってからも様々な事件が頻発していました。

抗議声明を出さないといけないような事件が何度も起こるのは普通ではありません。戦争をしていなくても、米軍の存在により、普通じゃない、平和じゃないと感じる小さな島で、沖縄の人々は暮らし、生きています。

私たちは、2024年の県民大会で、生徒を代表してアピールを発表しました。こんな被害を出すことも、アピールを出すことも絶対に最後にしてほしい、という思いを込めて作ったものです。そこには、こう書いています。

「米軍に言いたい。あなたたちにも家族がいるように、沖縄県民一人ひとりにも大切な家族がいます。あなたたちの誤った行動で、一人の人生が、周りの家族の人生が、暗闇に変わってしまうことを知ってください。私たち沖縄県民はあなたたちの奴隷でもおもちゃでもありません。」

「日本政府に言いたい。繰り返される米軍の犯罪をいつまで見過ごすのですか。今すぐ日米地位協定を改定してください。（略）長年、問題があると指摘されているにもかかわらず改定に取り組まないのは、国民を守る責任を放棄していると思います。安全保障を理由に多額の税金が米軍に使われているのに、その米軍が様々な事件を起こしていることを許していいわけがありません。」

「これは沖縄だけの問題ではなく、日本国民みんなが当事者の問題です。決して黙認しないでほしいのです。」

沖縄は、在日米軍専用施設の7割が押しつけられています。それにより、様々な事件事故が頻発しています。大人の都合で『安全保障』に必要だからと基地を肯定することで、沖縄の人々の安全が脅かされ、人権が侵害されるのはおかしいです。

本当は基地のない平和な沖縄を返してほしい。

大人の「遺憾だ」「再発防止」という口先だけの言葉はいりません。

私たちが今望むのは、被害者とその家族への米国からの真剣な謝罪と補償、そして事件を二度と起こさないという日米両政府の責任を伴った仕組みが作られ、沖縄の人々が安心できるようにきちんと説明されることです。

私たちの声を、沖縄の切実な訴えを、真剣に受け止めてください。

他人事で終わらせないでください。

無視しないでください。

本来声をあげるべきなのは、日本全体、みんなです。

どうか一緒に声をあげてください。

私たちはこの理不尽に対して本当に怒っています。

2026年10月10日

沖縄高校生平和ゼミナール

賛同団体　福井高校生平和ゼミナール・エバーグリーン静岡・東京高校生平和ゼミナール
広島高校生平和ゼミナール有志・岐阜県中高生平和ゼミナール・東京学生平和ゼミナール